

共同企業体「はたらっく」は 次の運動展開にチャレンジします

昨年の4月に共同企業体による事業の振りかえりと今後の展望について、生活クラブとワーカーズ・コレクティブ協会で協議を開始、10月にまとめの報告を出しました。

これまでの活動・事業の点検・総括を行い、改めて共同企業体による事業受託の目的・理念を再構築し、今後のまちづくり運動への発展を目指します。



生活訓練講座・調理

1. 主な成果

- ① 「はたらっく」が県内の座間市、足柄下郡、平塚市、綾瀬市の4市に広がりました。生活を大事にする視点のプログラムで利用者が元気を取り戻しています。
- ② 座間市と綾瀬市では就労準備と居場所の2事業を実施し、一体化した支援を提供しています。ひきこもり者にとって社会的自立へのステップの見通しを立てることができるようになりました。
- ③ どの「はたらっく」でも拠点があることが利用者の安心につながっています。困った時は相談できる場となり、孤独・孤立しがちな利用者の予防となっています。
- ④ 組合員への理解と共感が広がりました。
 - (1) 共同企業体の形成により困窮者支援の活動に組合員の参加が容易になりました。さがみ生活クラブ、湘南生活クラブとの連携で組合員へ「はたらっく」の活動を知ってもらい、協力・連携関係の実態づくりを進めました。
 - (2) 各「はたらっく」では、就労準備支援事業を切り口に組合員参加による困窮者支援を進めました。「ゆがわら」では城下町 commons のアソシエーション「おたすけ隊」が形成され、フードシェアや食堂に利用者が参加しています。「ぞま」は「^スターズ」が「居場所ここから」のサロン企画を担い、やさしい近所のおじさん、おばさんの存在になっています。「ひらつか」でも、組合員サポーターが居場所やお楽しみ企画の中心的な存在となっています。



2. 今後に向けて

① 新たな事業展開

今後、県内の自治体からの働きかけには、共同企業体構成団体の生活クラブ、ワーカーズ・コレクティブ協会、地域生協間での立ち上げに伴う諸々の調整、手続きや組織づくりを協働の力で対応します。

② たすけあいの形を作る

今後も共同企業体による事業を継続しますが「市民連帯経済つながるかながわ」のまちづくり会議などで連携し、地域単位のたすけあいの実態を構築していきます。

③ 連携してひろげていく

市民参加によるまちづくりの実践でもある「はたらっく」共同企業体による運営は、「市民連帯経済つながるかながわ」と連携することでより地域課題、ニーズを掘り起こし、まちづくりを進める可能性を持ちます。「はたらっく」の取り組みを神奈川全域、特に横浜市、川崎市のエリアでひろげていきます。

(おかだ ゆりこ)

座間市内の実習協力事業者の 懇談会を企画しました

実習体験の場を提供してくださっている事業者の方々に、今までの実習内容や成果・課題、就労の可能性などを語り合ってもらい、地域にある他団体との交流の場として協力事業者懇談会を開催しました。

株式会社や個人事業主、NPO 団体、ワーカーズ・コレクティブ、協同組合など様々な形態で事業を行っている 10 団体と、座間市地域福祉課の職員が参加しました。お互いの自己紹介から始まり、「はたらっく」の利用者を通して地域福祉課の役割などを



「はたらっく・ざま」協力事業者懇談会

理解する良い機会となりました。このような場を設けたことで、相互理解が進み大変有意義な時間でした。